

第13回 高知県 NEXT 次世代型施設園芸農業に関する産学官連携協議会

日時: 令和6年6月20日(木) 15:30~16:30

場所: 高知県庁本庁舎第二応接室(+オンライン)

1. 開会

2. 議題

(1) 認定計画の変更(事業責任者交代)等について

(認定計画: 地域における大学振興・若者雇用創出事業に関する計画)

資料1に基づいて、岡林 IoP 推進監より説明がなされ、事業責任者の変更等が承認された。

(2) 研究推進部会全体の成果と課題

資料2に基づいて、本家部会長より説明がなされた。

(3) 人材育成部会全体の成果と課題

資料3に基づいて、津江部会長より説明がなされた。

(4) IoP クラウド(SAWACHI)の普及状況・社会実装

資料4に基づいて、岡林 IoP 推進監より説明がなされた。

○質疑・意見交換

(高知県工業会・山崎会長)

本日、IoP プロジェクトのデータを拝見し、費用対効果がこれほど大きなプロジェクトは見たことがないと思った。データ連携基盤である SAWACHI の心臓部はとても価値があるものなので、しっかり管理してもらいたい。

(岡林 IoP 推進監)

知財の管理はしっかりと行う。データ流出は絶対にあり得ない。他県へ SAWACHI を展開した場合、他県が高知県のデータを見ることはできないし、同様に、他県のデータを高知県が見ることもできない。

10年、20年先を考えると、他県の各産地ともっと協力し合い、品目ごとに年間を通して、一定の流通

量を保つ取組を行う必要があると思うが、現段階では、他県とのデータ共有等を行う予定はない。引き続き JA グループとの連携により取組を進めていく。

(山崎会長)

収量増加に応じて肥料も増加するのか。

(岡林 IoP 推進監)

増加する。SAWACHIには、収量データと肥料の目安量とを関連付けられる画面がある。収穫量に応じた追肥の適正量を示し、環境への負荷を確認できる機能を実装する計画もある。

(山崎会長)

JA の出荷場において荷造りの自動化、荷姿の変更等が必要という声を聞く。今後、必須になっていくと思う。

(岡林 IoP 推進監)

省力化は大きな課題。荷姿の改善等も含めて取り組む。

(高知大学・受田学長)

生理生態 AI エンジンが完成しているのは、ナス・キュウリ・ピーマン・ニラ、未完成のものはシトウ・ミョウガ・トマトとなっている。

AI エンジンが現時点で未完成なものの収量、所得について、今後増える可能性があるのか。また、既に完成しているものについて、さらなる伸びしろがあるのかを教えてほしい。

(岡林 IoP 推進監)

ハウスのスペックや品目ごとのポテンシャルにもよるが、収量、所得がさらに増えていく可能性は高い。AI エンジンが既に完成している品目でも、農家が実際に生理生態情報を活用し、営農を改善している状態にまでは至っていないので、そこが今後の課題だと考えている。

(受田学長)

伸びしろは相当あるということか。

(岡林 IoP 推進監)

そうだ。世界1のオランダにはまだ負けている。

2. 閉会